

○司会 続きまして、学生さんの発表に移りたいと思います。まず、信州大学医学部医学科5年次生、奥野衆史より発表いたします。

○奥野 よろしくお願ひします。信州大学医学部医学科5年の奥野です。

僕からは、先ほど多田先生からもお話のあった「150通りの選択肢からなる参加型臨床実習」について報告させていただきます。既に9月、10月と2カ月間の実習が修了しているのて、その様子と、その中で僕が思ったことをお伝えしたいと思ひます。また、僕自身は信州大学の医学部学生自治会で昨年まで会長を務めておりましたので、学生全体で見たらどう思っているかという点についてもご紹介したいと思ひます。

まず最初に、僕は今年の9月に早速、市中病院のリハビリテーション科で1カ月の実習をさせていただきました。1日のスケジュールは、大体この左側のような感じになっていて、あまり最初から詰まっているということはないのですが、その中で適宜希望に応じて訪問診療や訪問看護、訪問リハや、ケアマネさんとの患者さんのお宅訪問や、行政サービスの担当者会議などに参加させていただきました。

1カ月実習をしてみてよかったこととしては、実習初日に指導医の先生と「この実習に君は何を求めているのか」、「どのように診療に参加したいのか」というディスカッションを1時間ほど行ったため、実習の最初から指導医と共通の認識で、この実習でどんなことをやりたいのかというのを確認して臨むことができました。

また、指導医の担当する患者さんの採血やルートキープなどは全て任せてもらいました。その際に、「責任は私が取るから、安心して臨んでほしい。その代わり、目的を持って日々の実習を行ってほしい」というふうに言われました。さらに、そのような実習生の医療行為については、指導医の先生と一緒に病棟に行って、病棟のスタッフの方々、皆さんの前でそういう周知をしてくださったことで、病棟のスタッフからもチームの一員として迎え入れてもらえることができました。

また、学生が患者さんから聴取した情報を、ほかのスタッフからの情報と同等に扱って、カンファレンスにおいても、「では、学生さんはどう思ひるか」というふうに意見を求められたのがすごく印象的でした。僕が取った情報を先生はちゃんと見ているし、それをまた同等に扱ってくれるということが自信にもつながったし、僕自身の実習に対する主体性にもつながっていったと思ひます。

続いて10月は、ほかの市中病院の消化器内科を回らせていただきました。スケジュールではこのような感じで1週間が組まれていました。週に3回予定されている内視鏡検査において、積極的に学び、指導医の先生とディスカッションをしながら参加することができたのですが、見学にとどまったことを少し後悔しています。というのも、実習後大学に戻ってきた際に、ほかの病院の消化器内科を回っていた学生が、「自分は、消化器内科で内視鏡を見るときは、先生が来る前から着替えて準備して、さあ、私も一緒に入れてくださいというふうに準備して待っていたら、一緒に参加することができたよ」という話

を聞いて、そこはすこしもったいないことをしたなど後悔しました。

また、病棟の時間は、病棟での診察を行ったり、患者さんのベッドサイドに行くような時間も設定されていましたが、指導医の先生がちょっとお忙しくて、一緒に病棟で患者さんを診る機会は、紹介のとき以外ではあまりもてなかったことも少し残念だったと思います。ただ、かといって、この1カ月の実習で、僕はとても参加型の実習ができたと思っています。やっぱりこういう空き時間でも、担当患者さんが大腸がんの高齢の女性の方だったのですが、アルコール依存症のある方で、医療不信が強い方でした。その方にどう受け入れてもらえるかとか、今後の治療方針や検査についてどう伝えるか、一生懸命こういう空き時間でも考えましたし、手の空いている先生とディスカッションすることもできました。

夜は大体、カンファレンスを8時前ぐらいまでやることがあったのですが、その際もやっぱり自分の受け持っている患者さんについての情報をほかの先生方と共有したかったり、先生方がどう思っているのか知りたいと思うとあまり苦にはならなかったと思います。

続いて、今回報告をさせていただくに当たって、同級生の医学科5年生にネットでアンケートに答えてもらって、この150通りの参加型臨床実習の満足度を聞きましたのでご紹介します。

まず、「150通りの実習内容完了に対する満足度を教えてください」という質問では、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせて85%となっていて、大半の学生が満足しているというふうに答えています。理由としては、今までの、4年生までの6人で回るときに比べて1人で回るので、手技を行える機会が増えたり、指導員との距離が近くなって相談の機会が増えたとか、あとは、150個のうちの一番希望するコース、自分はこんな実習をしたいと思うコースを選択できたとか、あとは、本人が望めばできる環境が整っている、自分の主体性でしっかりと参加する密度を調整できるというようなことなどが理由として挙げられました。

続いて、「150通りの臨床実習において、4年生の実習よりも診療チームの医療行為に参加する機会は増えましたか。変化しましたか」という質問では、やはり同じように84%の学生が、「とても増えた」、「やや増えた」と回答しています。この理由としては、4年生から1年間の実習を経たことで、診療チームへの参加の仕方が自分でもつかめてきた、実習そのものに慣れたという意見や、1カ月同じ科に留まるので、その中で自分が成長することで参加する機会が増えたという意見がありました。また、1カ月の中で指導医の先生との関係が密になり、担当する患者さんの人数が、4年生のときは2週間で1人だったのが、今は大体常に2～4人ぐらいの患者さん診せてもらっているので、それを理由としてあげる学生もいました。また、5年生になり、ある程度知識もあって、病棟のスタッフからも近い存在と認識されているからという意見もあります。あとは、これは僕自身も感じるのですが、グループで回るよりも1人で配属される方が、ほかの学生に遠慮することがなくて、本当に自分がやりたいような実習を指導員の先生と相談してできる、主体的に診療業務に携わることが可能になったという意見もあ

ります。

一方で、自由記述では批判的意見や不満も多いことが分かりました。

まず、交通費、滞在費、生活費に関して、学生及び教育病院の金銭的負担が重いことに問題があると思うということは、確かに県内の病院への移動に自家用車を使ったり電車を使ったり、あとは、僕も先月そうでしたけれども、朝昼晩と外食だったり、コンビニのご飯で過ごさなければいけないという状況はあります。ただ、この点については、先ほど多田先生からもご報告ありましたとおり、医学部独自の奨学金を制定して、それで今後対応していくことは、より、その認知が学生の中で広まっていけば、こういう苦しい負担が大きいという学生に、しっかり応え得る対応がとれているのではないかなと思います。

また2つ目、車を所持していることを前提としたプログラムが多過ぎるということですが、確かにこれも、僕もこの実習が始まるに当たって実家の親にちょっとお願いをして、2月の実習が終わるまでは車を貸してもらっている状況ですので、そういう現状はあると思います。

あとは、150通りでは自由度という点で不足を感じる。6年生で行う選択実習は、せっかく自由であるのに期間が3カ月と短い。そのため150通りについても6年生の選択実習と同様、ある程度選択の縛りを付けた上で自由選択にするのが、学生にとってはベストだと考えるという意見もありました。

僕らの学年は、4年生の実習において回れない内科が2つないしは3つありました。僕自身としても、150通りの実習までに神経内科と呼吸器内科は回ることができません。なので、その2つは6年生の選択実習で取ることになるかなと思います。そういう点において不満を感じているということですが、この点についても、今の1つ下の学年から大学内での実習の形式が変わって、回れない科を少なくするという対応が取られておりますので、今後、不満感も少なくなっていくのかなと思います。

まとめますが、主体的な学習姿勢が身に付いている学生にとっては、1人で回るということで、より自由に積極的に学べる機会を本当に増やすと思います。しかし、全ての学生がそのような主体性とか能動性を備えているわけではないので、アンケートでも実際に、同じ科に1カ月とどまっても、やることがないという回答もごくごく少数ですがありました。

また、今回のアンケートは回収率が38%と、全員が答えているわけではないので、答えていない子たちがどう思っているのかというのも、もうちょっと調べたいところではございます。

また、1人で回るに当たってとても思うのは、受け入れてくれる指導医や診療チームの雰囲気や接し方次第で、僕らの主体性とか積極性は奪われるし、逆に、養われるとつくづく感じます。アンケートの自由記述の欄で、これもごく少数なのですが、こういうふうに病院で実習するのがちょっと苦だと思ような学生もいると。ただ、僕自身としては、やっぱり患者さんから得た情報をチームの情報として扱われた経験は自信にもなりましたし、君がどういう実習をしたいのかというのを最初に相談に乗ってく

れた先生が、9月にそういう病院を回れたことで、この先の僕の実習の姿勢というのがより洗練された  
というか、土台ができたのかなと思います。

満足度はとても高いですが、一方で改善の余地は多く存在すると書いてしまいましたが、信州大学に  
おいては、その対策が既に練られていて、実際にとられていることも多く、それはひとえに先生方の医  
学教育の充実の熱意をすごく感じるとともに、学生的心声を前々からしっかり聞き入れてくださっていて、  
それをどう改善するかというのを結構敏感に感じ取って、変えるための方策を練ってくださっていると  
思います。学生目線でも、よりよくするためにという視点で今後実習を考えていきたいなと思います。

駆け足になってしまいましたが、以上で僕からの報告を終わります。ありがとうございました。